

各教科の結果から

国語

全体の平均正答数を見ると、全国平均、県平均とほぼ同等の結果です。「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は、全国平均、県平均と比べてやや低い結果となりました。「書くこと」の領域では、全国平均、県平均とほぼ同等の結果でした。文章構成の工夫を捉えたり、伝えたい事柄を相手に失礼のないように書き直したりする問題が、高い正答率でした。意見文の下書きを直した意図を選択する問題は正答率が低く、課題が残る結果でした。「読むこと」の領域は、課題が残る結果でした。文学的な文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の課題を持つ問題で、全国平均より低い正答率となりました。「言語文化」の領域は、平均正答数を見ると、全国平均、県平均と比べて高い正答率でした。文脈に応じて漢字を正しく読む問題が高い正答率でした。

数学

全体の平均正答数を見ると、全国平均、県平均とほぼ同等の結果です。「数と式」の領域では、具体的な場面での四則演算や数量の関係を一元一次方程式で表す問題が、高い正答率でした。基礎的な内容の理解が認められました。「図形」の領域では、ある条件の下でいつでも成り立つ図形の性質を見つけ、数学的に説明する問題の正答率が低く、課題が残りました。「関数」の領域では、表やグラフから必要な情報を読み取る問題が高い正答率でした。データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題に課題が見られました。「資料の活用」の領域では、与えられたデータから中央値を求める問題が高い正答率でした。一方で、2つの分布を比べる際の相対度数の必要性和意味の理解に課題が残りました。

令和3年度 全国学力・学習状況調査

小牧市の分析まとめと対策について【中学校】

令和3年10月
小牧市教育委員会
教育長 中川 宣芳

本年度の分析にあたって

8月31日、文部科学省より本年度の学力・学習状況調査の結果が公表されました。2年ぶりに行われた調査の小牧市の結果は、全国平均とほぼ同等の結果となりました。この調査の目的は、子どもたちの学力の傾向を捉えて指導の充実・改善を図ることです。子どもたちの学力の傾向を正しく分析し、今後の授業改善に生かしていくことが大切だと考えます。小牧市においても、子どもたちの学びの現状をしっかりと把握し、課題が残った部分を補いつつ、得意な部分をさらに伸ばしていけるような教育活動の実現につながるように、この調査結果を生かしていきたいと考えます。

今後取り組む指導改善のポイント

国語

- 「読むこと」の指導を充実させます。書かれている文章の内容を把握すると同時に、文章が書かれた理由や登場人物の関係性などを意識して深く読むことを習慣化するような指導を充実させます。
「書くこと」の指導を継続して行います。書いた文章を読み直し、目的や意図に応じて、詳しく書いたり簡単に書いたりする場合を、自ら判断して書くことができるような指導を工夫します。
「話すこと・聞くこと」については、どのような説明を加えると話の内容をわかりやすく伝えられるのかを検討し、自分の表現に生かすことができるよう支援します。

数学

- 基礎的・基本的なきまり、計算の方法などの定着を図るよう、日常生活の事象・場面を授業に取り入れ、有用感をもたせながら理解に導くよう工夫します。
式・表・グラフを関連付けた「関数」領域の指導を工夫します。
数学的に説明し、聴き合い伝え合う活動をより授業に取り入れることで、資料を効果的に使い、論理的に考察し、説明する力を身につけるための指導を継続して行います。
正誤の結果だけではなく、思考の過程にも着目して、どこでどのようにつまづいているのかを考え、授業の工夫に生かします。

全般

- 小牧市が長年取り組んでいる「学び合う学び」の授業は、今年度から完全実施された新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」を具現化する1つの方法であると考えます。すでに多くの学校で構築されている生徒同士の共感的・互恵的な人間関係のもと、さらに主体的に学ぶ姿を大切にしていきたいと思えます。
一人一人の学びの様子から、主体的な活動を奨励し、個々のつまづきに寄り添うような指導を心がけます。

質問紙調査から

新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校中、勉強について不安を感じたか 当てはまる 35.4%
計画的に学習できたか 当てはまらない 27.3%
規則正しい生活を送ったか 当てはまらない 24.7%
昨年度の休校中は、思うように学ぶことができず、不安を感じたり生活のリズムが乱れたりした生徒がいました。子どもたちの学びを止めないように、今後も様々な取組を行っていきます。
人が困ったときには進んで助けるか
この問いで肯定的に答えた生徒は 89.2%で、全国平均を上回りました。一方で、
いじめは、どんな理由があってもいけないと思うか
この問いでは、肯定的に答えた生徒が 94.9%で、全国平均をやや下回りました。規範意識が高いことを活かして、いじめの根絶に向けて意識向上を図っていきます。

1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだか 肯定的 79.6%
約8割の生徒が肯定的と回答しました。主体的に授業に取り組む姿勢が身についています。また、この質問に肯定的に回答した生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られました。今後も「主体的・対話的で深い学び」の授業を進めます。
家で、自分で計画を立てて勉強をしているか
肯定的と答えた生徒は 57.3%にとどまり、全国平均をやや下回りました。主体的な学習態度が望まれます。
国語・数学の勉強は大切だと思うか 肯定的 88.6%・80.8%
国語・数学の勉強は将来役に立つと思うか (国)・(数) 肯定的 83.2%・68.6%
国語と数学を比較すると、数学を学ぶことが実生活と結びつきにくいようです。学んだことを使って「何ができるようになるか」まで見通しが持てるように、授業改善を継続していきます。

1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか ほぼ毎日 25.5%
ほぼ毎日の使用が、全国や県平均と比べて、3倍以上の高い値でした。デジタル教科書やタブレット型端末などを、日常的に授業で使用していることが分かります。ICT機器の有効的な活用方法の研究を進め、さらに使用率を高めていきます。
新聞を読んでいるか
「毎日読む」または「週に1~3回読む」と回答した生徒は 13.9%で、全国平均・県平均よりも高い結果でした。新聞を読む回数が多い生徒ほど、平均正答率が高くなるという相関関係が全教科で示されました。新聞や本を読むことは、知識や語彙力を増やしたり、伝わりやすい文章構成や表現を学んだり、想像力を高めたりと、様々なよい学習効果があります。家庭でも、家庭学習の習慣とともに、書面を読む時間を大切にしたいと考えています。

学習態度・生活態度の状況